

1. 重点課題に対する取り組みについて

(1) 安定的で持続可能な経営の推進

①外部環境

人口減少に伴う園児の減少によって、定員減する園が鹿児島市でも増える中、本園においては、60名定員の中、月平均76名園児が在園し、委託費における収入を確保できました。しかし、R7年度より待機児童政策として、120%超過が連続5年以内とされていた制度が2年以内となり、また、鹿児島市独自の取り組みにより、5年以内に原則利用定員内の範囲内での受け入れとなるようにとの達示があったため、今後の安定的な経営についての取り組みが必要になります。

②重点課題に対する取り組み

- ・地域で必要とされている園であるため、在園児数は月平均76名を維持し、安定的な委託費による収入を確保できました。
- ・保育士の退職はなく、年度途中で2名の保育士が産前・産後休暇にはいりましたが、保育活動に大きく影響がないほど、職員の数も安定していました。
- ・年度当初は、調理員不足で給食業務がスムーズに回らないこともありましたが、非常勤・常勤の調理員各1名ずつが入職したため、給食業務もスムーズにすすみ、子どもの「食」への活動も充実したものになりました。

(2) 慈愛の保育の推進

①外部環境

昨今の子どもたちを取り巻く環境は大きく変わり、特に虐待・不適切保育への対応は、指導監査・確認監査事項にも上がるほど市保育幼稚園課でも大きく取り上げられ、子どもの人権について一人ひとりが意識を高める必要があります。

②重点課題に対する取り組み

- ・園内研修で「子どもの人権擁護」について具体的に学ぶ時間を設け、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を通じての個人面談を実施することにより、一人ひとりの意識を高めるような手だてを行いました。
- ・職員一人ひとりが考えている「慈愛の保育」について、具体的な保育方法が見いだせず園全体の意識の統一が見えなかったため、一人ひとりを大切にする「こども主体の保育」への切り替えを図りました。具体的な保育方法について、これから実践を通して示していきたいと思います。

(3) コロナ後の保育内容の深まりと地域とのさらなる連携を進める

①外部環境

5類になった新型コロナウイルス感染症の防止を踏まえた生活様式になり、保育環境も通常に戻りつつあります。地域での活動もコロナ以前に戻し地域との交流を深めた上で、子どもたちの体験の機会を大事にし、感性の発達に役立てたいと思います。

②重点課題に対する取り組み

- ・ 架け橋や昭和クラブのディサービスを訪問し、お年寄りとの交流を図り、また、高麗町の敬老会に年長児が参加して歌や踊りを披露することで、地域の方に喜んでいただきました。
- ・ ハロウィンによる地域の訪問では、前もって連絡を密にとり、訪問先にお菓子を預け、子どもに渡してもらうイベントを実施しましたが、訪問先からのご厚意をたくさんいただいたり、歩いている途中のお店の方から話しかけられたりするなど、地域との楽しい交流を実施することができました。子どもたちとの交流を地域の方もとても喜ばれていました。
- ・ 久木田学園の庭にあるみかん狩りに招待され、学生たちと交流したり、みかん狩りを体験させていただいたり、普段できない交流を体験できました。

(4) 発達障害等のある児童に対する支援体制を作る

①外部環境

発達障害といわれる様々な特性を持ち、集団生活の中で困り感を持つ子どもたちが増えています。本園でも、令和元年度から令和5年度まで療育機関を利用している園児は平均14%程度、その他気になる子どもは平均7%程度おり発達相談を受けたりしています。

②重点課題に対する取り組み

- ・ 臨床心理士の訪問指導において、子どもの発達や特性を理解し、適切な関わりや手立ての助言をうけることにより、個々の生活環境の調整を通して発達や成長を支援していくことができました。
- ・ 保護者の抱える悩みや不安に向き合い、支援していく相談やケース会議により、職員みんなで子どもの姿を共通理解する支援体制を作りました。
- ・ 職員と療育事業所が連携を取り、相互の子どもの様子を確認することで、子ども理解へとつながり、新しい手だてにつなげることができました。

(5) 働きやすい職場づくり

①外部環境

近年、社会問題として保育士不足や他業種と比べて給与面や社会的地位の低さも問題視され、改善が求められています。また、保育園で働く職員の精神的な負担も増えていると感じ、職員が働く環境を改めて見直し、改善を図ることにより、保育の質の確保や安定した施設運営、人材確保につながると思われます。

②重点課題に対する取り組み

- ・ 職員が、お互いに保育についての思いや考えを表現する時間の大切さを感じ、部屋ごとに毎週1回振り返りの時間を設けました。保育のことから個人のことで、気軽に話ができる雰囲気づくりや、お互いの思いを知る大事な時間になりました。
- ・ 職員面談を年に2回実施し、人事考課を含むこれからの目標について相互理解した上で、職員の悩み等にも寄り添い、意見を受け止めてきました。
- ・ これまで、業務内容の見直しを行い、不必要な業務を削減したり、統一化したりしました。保護者への影響があるところは、きちんと説明責任を果たしました。
- ・ 職員が業務を遂行する為に必要な器具備品や保育材料の補充、また修繕箇所には迅速に対応し、職員の業務がスムーズに遂行できるよう環境を整えました。

2. 事業所の取り組み

(1) 年齢別在籍児童数

(年平均人数) 定員 60 名

年齢 性別	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
男児	6.8 人	7 人	6.5 人	7 人	3.7 人	5 人	36 人
女児	2 人	5 人	5.3 人	7 人	10.8 人	10 人	40.1 人
計	8.8 人	12 人	11.8 人	14 人	14.5 人	15 人	76.1 人
	(7.5)人	(12)人	(15.2)人	(14.7)人	(15)人	(15)人	(79.4)人
割合	11.6%	15.8%	15.5%	18.4%	19.0%	19.7%	100%

()は前年度実績

※5 年連続して 20%超えしない範囲で、保育士数や保育室の認可された面積の条件内で、児童を受け入れることができました。

(0 歳児の月別在籍数)

月 性別	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
男児	5 人	6 人	7 人	7 人	7 人	7 人	7 人	7 人	7 人	7 人	7 人	7 人	81 人
女児	2 人	2 人	2 人	2 人	2 人	2 人	2 人	2 人	2 人	2 人	2 人	2 人	24 人
計	7 人	8 人	9 人	9 人	9 人	9 人	9 人	9 人	9 人	9 人	9 人	9 人	105 人
	(4)人	(6)人	(6)人	(6)人	(6)人	(8)人	(9)人	(9)人	(9)人	(9)人	(9)人	(9)人	(90)人

()は前年度実績

(年間延べ人数)

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
R5 年度	90 人	144 人	182 人	176 人	180 人	180 人	952 人
R6 年度	105 人	144 人	141 人	168 人	174 人	180 人	912 人
前年比	+15 人	+0 人	-41 人	-8 人	-6 人	+0 人	-40 人
	116.7%	100.0%	77.5%	95.5%	96.7%	100.0%	95.8%

(2) 保育事業

	保育計画	実 践	反省・課題
0 歳児	・家庭との連携をとりながら、保育士との個別的なふれあいに配慮し、依存的要求を満たし情緒の安定を図る。 ・一人ひとりの子どもの生活リズムを大事にしながら生理的欲求を満たし、安全で清潔な環境の中健康に過ごせるようにする。	・一人ひとりの生活リズムと発達に合わせた生活ができるように努めた。 ・子どもの発達や個性に合わせた空間づくりを工夫して、のびのびと遊べるように、安全な環境づくりをした。 ・保護者との連絡や相談を密にして、健康面や子育ての悩みに寄り添うようにした。	・低月齢児の保育について、家庭と十分に連携を取り無理のないように努めた。 ・子どもの成長に合わせて室内の環境を変化させることで、個々に合った遊びや生活ができ、落ち着いて過ごせた。 ・保護者との信頼関係作りを丁寧に行い、子育てに寄り添うことができた。
1 歳児	・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い、体を動かすことを楽しむ。 ・周知の物事を知ろうとする芽生えを養い、ことばの習得を助ける。	・月齢や経験を考慮したグループ分けや、保育士の配置、室内の環境の見直しをした。 ・興味や関心を引き出すような言葉かけ、環境づくりを心掛けた。(玩具の選び方、補充等) ・戸外遊びや散歩を通して自然に親しむ機会を多く取り入れた。	・少人数のグループ分けや0歳児と合同で活動することにより、ゆとりや異年齢の関わりで保育ができ、一人ひとりに目を向け、互いの刺激となり成長した。 ・発達に合った玩具を揃え、十分に遊びこむ姿が見られた。
2 歳児	・「自分で！」の気持ちを大切に、様々なことに挑戦し、友達と関わったり、体を動かしたりする楽しさを味わう。 ・色々な経験を通して言語活動や表現力を豊かにする。	・基本的な生活習慣が身につけられるように、適切な援助を行い子ども達が意欲的に生活できるようにした。 ・子どもの興味を引き出し、意欲的に活動できるような環境づくり、保育計画を行った。	・個人差に配慮して、無理のない目標を設定し、楽しみながら生活習慣が身についていた。 ・様々な体験活動を取り入れ、子どもたちの好奇心や探究心を育てた。 ・保護者の気持ちに寄り添い、日頃からの連携を大切にしていた。
3 歳児	・子どもの要求を大切にしながら基本的な生活習慣の自立を図り、集団生活への適応を推進し、生活経験の拡大を図る。 ・言葉の獲得を通し友達との関わりを深め、ごっこ遊びや、外遊びを十分にし、体を動かす楽しさを味わう。	・個々の特性や姿を大切にす保育を行った。支援が必要な子どもについて園全体でサポートした。 ・運動遊びやごっこ遊びを通して、友だちとのかかわりを多く持てるようにした。 ・遊びの中で、必要な体の機能の発達や社会のルール等を学べる工夫をしていた。	・発達が気になる子どもについて、職員間で情報を共有し、家庭や療育機関とも連携して、対応した。 ・保護者面談を行い、子育ての不安感に寄り添い、信頼関係を築いた。 ・子どもたちの主体性を大切にしたい保育を心掛け、興味を引き出していた。
4 歳児	・色々な自発活動の場を与え、成就の喜びを持たせ良いこと、悪いことを判断して行動する。 ・友達関係を深める中、相手の主張を聞くことで思いやりを持つ。	・個々の気持ちを引き出し、表現できるように一人ひとりと丁寧に関わった。 ・クッキングや栽培、収穫など体験活動を多く取り入れた ・療育施設との連携を大切にし、共通理解が図れるようにした。	・年齢や発達に沿った活動ができるように、様々な体験ができるよう楽しめる保育を計画した。 ・発表会や運動会等の行事で個々の良さが発揮されるよう、子どもたちの意見を大切にしていた。
5 歳児	・年長になったことを喜び自覚すると共に、就学への期待を持つ。 ・異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合い、仲間に認められる事によって自己発揮する。 ・友達と共通の目的に向かって、さまざまな行事や活動に意欲的に取り組む。	・子どもの興味関心を引き出し、自分たちで考え工夫して遊べるように、廃材等をいつでも使える環境づくりをした。 ・話し合い活動を取り入れ、子どもたちの意見を取り上げるようにした。 ・自主的な遊びを中心に、盛り上がり遊び込めるように、担任は環境を整えていた。	・絵本や掲示等で自然と関心が向くような環境づくりをした。子どもの言葉を拾い上げ、保育に反映できるようにすることで、遊びが展開していった。 ・行事について自分たちでやりたいことを話し合い、発表会では劇のセリフや衣装なども子どもたちで考え、仕上げた。

(3) 給食事業

主な計画	実 践	反省・課題
・献立の立案 ・子どもの栄養状態の把握 ・給食検討会 ・食事調査の実施 ・食育の年間計画の立案 ・アレルギー除去食の提供 ・園内の畑やプランターで野菜の栽培	・郷土料理や行事食、旬の食材を組み入れ、食の伝統文化や四季の味を知らせる。 ・食事の摂取状況や活動状況、身長や体重などの発育状況の把握を行った。 ・毎月1回保育士と意見を出し合い、給食に反映させた。子どもたちの意見も取り入れた。 ・家庭での食生活の調査をし、家庭と園との連携を図ることにより、その後の献立、栄養指導につなげた。 ・食事のマナーを知らせると共に、楽しい雰囲気の中で、友達と一緒に食べる喜びを味わう。 ・保護者との連携をとり、アレルギー除去食の提供を行い、調理の際には事故のないよう十分配慮し、保育士と給食室との連携も密にとった。 ・園内に畑を整備し、野菜苗植えから栽培し、生長観察、収穫を行う。	・地域の産物を活かした料理や旬の食材を知り、郷土料理や季節感を味わうことができた。 ・子どもの食事の状況を把握することにより、献立や調理法の改善に生かした。給食担当職員と園児の交流を行い、子どもの実態を知り、親しみを持つことができた。 ・個々の発育曲線グラフを作成し、発育の状況を把握し、保護者にも伝え喜ばれた。 ・アレルギーの対応は保護者や医療機関との綿密な連携が必要である。また、誤配食を防止するため、トレーの色や表示、職員同士の確認を徹底した。 ・大きい組の園児は、保育士と献立を確認しながら、献立ボードでの三つの栄養素の確認をし、栄養に興味をもつことができた。 ・身近な野菜を栽培し、収穫することで食材や調理にも興味を持ち、感謝して食べることにもつながった。

(4) 地域交流事業

事業名	実 践	反省・課題
・世代間交流事業	・「高麗町敬老会」に参加 ・「架け橋」「昭和クラブ」のデイサービスとの交流	・高麗町敬老会では、年長児が参加して舞台発表を行った。子どもたちの姿に高麗町の方々が喜んで下さり、子ども達も日頃の感謝を伝えることができた。 ・ディサービスでの交流は実際に触れ合ったり、踊りを見ていただいたりして、楽しい交流時間をもつことができた。
・異年齢児交流事業	・卒園児との交流（1回）	夏に小学1年生対象に同窓会を行った。在園児と一緒に遊んだり、一緒に食事をしたりする時間もつくり、とても良い交流の時間となった。冬の小学4年生との交流はインフルエンザ流行のため中止した。
・保育実習 ・職場体験学習 ・ボランティア ・福祉・保育体験学習	・鹿児島中央看護専門学校 ・鹿児島女子短期大学 ・久木田学園看護専門学校 ・キャリアデザイン専門学校 ・さんさんすまいる	・実習生の指導を通して、職員の指導能力や専門職としての自覚が向上すると思われた。 ・多くの人とかかわることで、子どもたちも成長する機会があった。

(5) 幼児保育相談事業 臨床心理士 大坪恵美子先生 (年4回)

内 容	反省・課題
・個々の行動観察と気になる子どもへの具体的な対応について ・保育内容や方法についての指導 ・担任保育士とのカンファレンス ・就学時相談について ・療育等への連携について ・保護者面談 (2回)	・子どもの気になる行動について、事前に連絡して、相談することでより詳しく助言してもらうことができた。また、日頃の姿を心理士と一緒に観察することで、考えられる原因や、違う面から見た理解もできた。 ・事前に相談していない子どもについても、観察時に気になることを具体的に担任に伝え、対応策を教えてくださいました。 ・専門機関への連携や、具体的な進め方もアドバイスしてもらい療育等に通所することができた。 ・対象児が多く、限られた時間内で相談することが難しかったが、相談を重ねるごとに、保育士の知識や専門性は高まったと思われる。 ・子育てに不安や悩みを強く持つ保護者に対して、直接アドバイスしてもらう機会を設け、安心してもらう事ができた。また、職員が面談する際に事前に相談し、適切な助言を頂けた。

(6) 実習受け入れ

学校名	実習期間	日数	人数	目的
鹿児島中央看護専門学校	R6 6/17～9/20	各2日間 (合計20日)	24名	小児看護学実習
さんさんすまいる	R6 7/8～8/9	2日間	11名	職員研修
鹿児島女子短期大学	R6 8/16～8/28	11日間	1名	保育実習
キャリアデザイン専門学校	R6 12/2～12/14	10日間	1名	保育実習
久木田学園看護専門学校	R7 1/20～1/23 R7 1/27～1/30	4日間	8名	小児看護学実習
鹿児島女子短期大学	R6 2/14～2/27	11日間	2名	保育実習

3. 相談・苦情

計画(対応策)	内容	対応・反省
・苦情解決責任者、苦情受付担当者、および第三者委員を設置し、苦情解決の体制を整えた。又、苦情申し出窓口の設置について、年度初めに保護者に周知する。 ・苦情の申し出でなくとも、園の運営に関しての要望や苦情を受け付け、改善すべきことは改善し、キッズンリー等を通して公表し、園運営に生かしていくよう努める。 ・日頃の保護者とのコミュニケーションを大切にし、相互理解を深める。	・子どもが帰宅後、耳の不調を訴えた。園で説明がなかった。 ・子どもの送迎後、駐車場で携帯を触るなどして、長時間駐車している車がある。	・主任が保護者に対応し、詳しく説明し、担任の説明不足について謝罪する。保護者への伝え方について、全体で共通理解する。 ・駐車場の使い方のルールとして、保護者へキッズンリーで状況を説明し、お願いする。

4. 防災訓練

日時	種別	参加人員	内容
4月27日（月）	災害時の対応について	各クラスで実施	災害時の対応についての話し合い、避難経路確認、消火訓練
5月17日（金） 18:05	火災 （延長保育時）	園児 8 名 職員 5 名	避難、消火訓練
6月7日（金） 10:35	地震	園児 65 名 職員 23 名	避難、消火訓練 （防災頭巾）
7月29日（月） 15:20	火災	園児 59 名 職員 15 名	避難、消火訓練
8月30日（金） 10:40	台風・水害	園児 59 名 職員 15 名	避難、消火訓練
9月30日（月） 18:20	地震 （延長保育）	園児 8 名 職員 4 名	避難、消火訓練
10月17日（木） 10:05	火災	園児 68 名 職員 19 名	避難、消火訓練
11月14日（木） 15:25	地震・津波	園児 66 名 職員 18 名	避難、消火訓練、防災ずきん
12月28日（土） 10:00	火災	園児 16 名 職員 8 名	避難、消火訓練
1月31日（金） 14:48	地震	園児 64 名 職員 19 名	避難、消火訓練、防災ずきん
2月18日（火） 10:00	火災（消防署 立ち合い）	園児 65 名 職員 17 名	避難 消火訓練
3月4日（火） 7:50	地震 （早朝）	園児 6 名 職員 3 名	避難 消火訓練

5、会議及び研修

(1) 研修計画（園内）

主な計画	実 践	反省・課題
◎園内研修	・職員研修（正規職員のみ）6月 ・職員研修（正規職員のみ）2月	・おひさま見学を実施後、子ども主体の保育について、保育所保育指針・人権擁護のセルフチェックリストをもとに意識付けをする。 ・環境について工夫したことを各クラスより発表。 ・「環境」「チーム保育」について話し合いを行ったが、まだ具体的ではないため、全員に浸透するまでは時間がかかる。令和7年度も引き続き、職員が同じ理念をもって保育に取り組むための具体的な手だてが必要である。

(2) 会議

会議名	回 数	延べ参加人数	会議内容	参加職種
職員会議	12回	120名	翌月の行事・研修・共通理解	園長・主任・保育士・栄養士・事務
危機管理会議	12回	72名	毎月の事故状況・発生防止策	園長・主任・保育士
給食検討会	12回	72名	喫食状況・献立、食育検討	園長・主任・栄養士・保育士
担当者会議	不定期	80名	行事等の準備・計画・実施	各担当者

6. 年間行事報告

毎月の行事	実 践	反省・課題
誕生会	・月により行事と抱き合わせてそれぞれの担当がリズム室と小さい組と大きい組に分かれて実施した。（毎月保育士2名が担当）	・大人数の密をさけるため、未満児と以上児に分かれ、実施する。集団が苦手な子は保育士がそばにいて個別に対応し無理なく進められた。
避難訓練	・月により地震や火事、不審者など災害の種類を変え、実施時間も様々な時間帯に設定し、また時間を職員にも伝えず実施し対応力を訓練する機会を多く持つようにした。	・消防署立ち合いの避難訓練後は消防署への見学にもつながり、子どもたちも新しい体験ができた。 ・鹿児島市の安心安全課による不審者対応の指導も受けることができた。
設備点検	・設備点検マニュアルに従い、担当保育士が丁寧に点検を行った。	・修理が必要な部分はすぐに業者に連絡し、改善を図った。今年度は特に修繕箇所が多く、その都度対応するとともに、計画的に進めることの大切さも感じた。

月	主な計画	実 践	反省・課題
4月	入園式	・4月20日に入園式を行い、新入園児の入園を祝った。	・前年度の途中入所児を含めての入園式になるため、賑やかに開催されたが、今後実施していく必要があるのかを検討していく。
5月	慈愛の郷との合同訓練 春の遠足	・慈愛の郷、全館を通じての避難訓練に園長・事務が参加し、人員の確認や消火訓練を実施した。 ・各クラスの発達に応じて、近場の公園を選び徒歩で実施した。	・子どもの午睡時だったため、職員のみ参加となる。 ・天気がすぐれなかったため、園内遠足のクラスや、遊びだけ行くクラスなど、状況に応じて判断し実施した。

6月	健康診断 歯科検診	・予定通り実施できた。	・密を避け、風通しの良いところで実施した。
7月	プール遊び開始 夏祭り	・大きい組、小さい組に分かれ、保育活動の中にプール遊びを取り入れた。(7月～8月)	・監視する人を必ず一人置き、監視体制を整えた。 ・土曜日の午前、保護者と一緒にクラスごとで時間を分けて参加し、いろいろなゲームや遊びを楽しんだ。
8月	お泊り保育 防犯教室	・科学館見学、花火あそびやおばけ屋敷等、年長児のみ参加し、園に泊まる経験をする事ができた。 ・鹿児島市安心安全課が来園し、不審者対応について年長児が学ぶ機会となった。	・園児13名参加、職員4名がついて、土曜日の午後3時から日曜日の午前9時まで預かった。様々な体験ができたが、健康・安全第一に考え、途中熱発の子どもを迎えも保護者をお願いする状況となった。
9月	十五夜	・十五夜の行事についてわかりやすく伝えた後、すもうや団子づくりを実施し、日本の文化に触れることができた。	・十五夜の意味を各クラスで伝えた後、怪我がないようにすもう等を楽しんだ。
10月	運動会 高麗町敬老会 交通安全教室	・甲南中学校の体育館を借りて、運動会を実施することができた。 ・年長児が高麗町の敬老会に参加し、歌や踊りを披露した。 ・鹿児島市安心安全課が来園し、交通ルールについて学ぶことができた。	・小さい組と大きい組の2部制で実施したが、入れ替わりもスムーズで、保護者とともに楽しく参加できた。 ・保護者のご協力のもと、町内の行事に参加できた。 ・交通ルールについて、わかりやすく学ぶことができた。
11月	秋の遠足	・01歳児は近場の公園、2歳児は電車遠足、345歳児はバスで水族館の遠足を楽しんだ。	・それぞれのクラスの職員が、目的にあった交通手段や場所を決め、安全に気を付けながら、子どもたちにとっては楽しい遠足を体験できた。
12月	発表会 クリスマス会	・クラスごとに保護者の入れ替えをしながら、歌やダンス、劇など、子どもたちの発達にあった演目を披露した。	・年長児は自分たちで劇の内容やセリフ、動き、衣装も作り、堂々とした発表ができた。当日だけではなく、作り上げる過程の子どもたちの活動や気持ちも大事にしていた。
1月	久木田学園 ミカン狩り	・久木田学園のミカン狩りに招待していただく。ミカンがりの前には学生たちと触れ合い遊びも体験できた。	・子どもたちの手が届かないところも取りやすく援助してくださるなど、とても活動しやすく準備していただいていた。たくさんのミカンも頂き、子どもたちも大喜びだった。
2月	節分の行事 消防署立ち合い避難訓練 入園説明会	・各クラスに応じて子ども同士で鬼になったり、職員が鬼に扮したりして、節分の行事を楽しんだ。 ・消防署立ち合いの元、避難訓練を実施することができた。 ・5組の親子の参加で、ゆったりと実施することができた。	・年齢に応じた行事の楽しみ方をそれぞれ工夫できていた。 ・消防車に子どもたちがとても興味を示したため、その後の消防署見学につなげることができた。 ・園での重要事項について説明し、また、個別に担任と面談を実施することができた。
3月	卒園児遠足 卒園式	・年長児のみ貸し切りバスを利用してサーカス最終日に入場することができた。サーカスを見ることが初めての子どもも多く、特別な体験ができた。 ・職員の準備や子どもたちの作品で会場を彩り、心をこめて子どもたちの卒園を祝った。保護者の方も園や担任に感謝の気持ちを伝えて下さった。	・前もって連絡・予約していたこともあり、会場についてもスタッフの方がスムーズに席まで案内して下さり、子どもたちも安全に楽しめた。 ・自分たちが主役という自信に年長児一人ひとりの表情は輝いており、心のこもった卒園式を実施できた。 ・卒園式後もほとんど欠席なく3月30日まで全員で登園してきたことは、子どもたちにとって、園がとても楽しい場所であることを再認識した。

7. 設備計画

月 日	工事名 ・ 品名	内 容
R6. 4 月 1 日	ノート型パソコン (1 台)	事務職員が増えたため購入
R6. 10 月 24 日	大型冷凍冷蔵庫	厨房の大型冷凍冷蔵庫。老朽化のため、買い替え
R6. 12 月 20 日	デスクトップパソコン (3 台)	事務所パソコン 3 台、老朽化のため買い替え
R6. 1 月 18 日	防犯カメラ設置工事 (7 台)	園内の防犯、安全確認のため新規で設置
R6. 3 月 21 日	木製総合遊具	木製遊具が老朽化のため、買い替え

8. 職員管理

- (1) 入職者 常勤職員 1 名 (調理員 1 名)
 非常勤職員 1 名 (調理員 1 名)
- (2) 退職者 常勤職員 1 名 (保育士 1 名)
 非常勤職員 1 名 (調理員 1 名)
- (3) 産休・育休職員 正規職員 1 名 (保育士 1 名)
 常勤職員 1 名 (保育士 1 名)
- (4) 職員体制 (令和 7 年 3 月 31 日現在)

職種区分	人数	正規職員	常勤職員	非常勤職員	
園 長	1 名		1		
主任保育士	1 名	1			
副主任保育士	1 名	1			
保育士	15 名	8	4	3	うち 2 名育児休暇中
栄養士	1 名	1			
調理員	4 名		1	3	
事務員	2 名	2			
施設係	1 名			1	
計	26 名	20	6	10	